

5.2 野鳥の会鳥類調査

5.2.1 調査内容・方法

2002年春から2003年冬にかけて、「(財)日本野鳥の会沼津支部」の協力により鳥類調査が行われました。

調査では、各調査員1~4名が調査場所を歩き、鳴き声や目撃によって鳥類を確認しました。調査地点は、狩野川河川敷から箱根の稜線までの16ヶ所です。

5.2.2 調査結果

調査の結果、表5-2-1に示す14目33科90種が確認されました。第3章で解説した鳥類調査では確認されず、「(財)日本野鳥の会沼津支部」の調査のみで確認された種は、ウミウ、ミゾゴイ、ハヤブサ、ユリカモメ、エゾムシクイ、コサメビタキ、ニュウナイスズメの7種です。

比較的多くの調査地点で確認された鳥類は、キジバト、ヒヨドリ、ウグイス、カワラヒワ、ハシブトガラスで、いずれも一年を通して観察することのできる留鳥でした。逆に1ヶ所のみで確認された種は、オナガガモ、オオバン、タシギ、ヤマセミ、ホオアカなどでした。

種の保存法の指定種や、環境省のレッドデータブックに載っている種としては、表5-2-2に示す2目3科5種が確認されました。このうち、オオタカとハヤブサは、低地から山地までの数ヶ所で確認されましたが、ミゾゴイ、ミサゴ、ハイタカの3種は1ヶ所で確認されただけでした。ミゾゴイは夏鳥として日本に渡ってくる鳥で、冬にはフィリピンや中国南部などで越冬します。全国的に減少していると考えられている種ですが、三島市でも生息している場所は限られているようです。

表 5-2-2 野鳥の会鳥類調査貴重種一覧

目名	科名	種名	選定基準	
			種の保存法	レッドデータブック
コウノトリ	サギ	ミゾゴイ		準絶滅危惧
タカ	タカ	ミサゴ		準絶滅危惧
		オオタカ	国内希少野生動植物種	絶滅危惧 類
		ハイタカ		準絶滅危惧
	ハヤブサ	ハヤブサ	国内希少野生動植物種	絶滅危惧 類
2目	3科	5種		

表 5-2-1 野鳥の会鳥類調査確認種一覧

目名	科名	種名	備考
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	
ペリカン	ウ	カワウ、ウミウ	
コウノトリ	サギ	ミゾゴイ、ゴイサギ、コサギ、アオサギ	
カモ	カモ	オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ ホシハジロ、キンクロハジロ	
タカ	タカ	ミサゴ、トビ、オオタカ、ツミ、ハイタカ ノスリ、サシバ	
	ハヤブサ	ハヤブサ、チョウゲンボウ	
キジ	キジ	キジ	
ツル	クイナ	バン、オオバン	
チドリ	シギ	タシギ	
	カモメ	ユリカモメ	
ハト	ハト	キジバト、アオバト	
カッコウ	カッコウ	ホトトギス	
アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ、アマツバメ	
ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ、カワセミ	
キツツキ	キツツキ	アオゲラ、アカゲラ、コゲラ	
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	
	ツバメ	ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ	
	セキレイ	キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ ピンズイ、タヒバリ	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	
	モズ	モズ	
	ツグミ	ルリビタキ、ジョウビタキ、ノビタキ クロツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミ	
	ウグイス	ウグイス、オオヨシキリ、エゾムシクイ セッカ	
	ヒタキ	キビタキ、オオルリ、エゾビタキ コサメビタキ	
	カササギヒタキ	サンコウチョウ	
	エナガ	エナガ	
	シジュウカラ	ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ	
	メジロ	メジロ	
	ホオジロ	ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、アオジ	
	アトリ	カワラヒワ、マヒワ、イカル、シメ	
	ハタオリドリ	ニューナイスズメ、スズメ	
	ムクドリ	ムクドリ	
	カラス	カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス	
	キジ	キジ	コジュケイ
ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	外来種
スズメ	チメドリ	ガビチョウ、ソウシチョウ	外来種
14 目	33 科	90 種	

注)種名・配列は日本鳥類目録 改訂第6版(日本鳥学会,2000)に従いました。